



公益財団法人SAJ

SAJ Farm 通信

vol.9  
2011年 4月号

公益財団法人  
School Aid Japan  
〒144-0043  
東京都大田区羽田 1-1-3  
TEL: 03-5737-2773  
FAX: 03-5737-2793  
<http://www.schoolaidjapan.or.jp>  
sajinfo@schoolaidjapan.or.jp

## 農場造成工事スタート！！

3月7日、農場を造成するための工事がスタートしました。工事監督1名、作業員約10名が、コンボ2台・ブルドーザー2台・トラック3台の大型重量機械を使用しての工事です。デコボコした地面を平らにし、田んぼを作り、池を掘り、そして農道を作りと大掛かりな工事が行われています。この工事は約半年後の9月に全作業を完了する予定で、そしてその時にはやっと農場としての形がSAJ Farmに出来上がることとなります。

この農地での本格的な活動が始まったのは昨年5月。まだその時には、もともと田んぼだった2アールの土地を除いて、農地の半分には野草がはびこり、残りの半分は雑木林で覆われている状態でした。昨年はその2アールの田んぼでお米作りをしたのですが、洪水の被害に会い失敗という結果に終わってしまいました。

またそのお米作りとは別に、農地の雑木林の木を切り払い、土中に深く埋まったその木の根っこを一つずつ取り除いていく作業も行っていました。それからやっと、この広い農場をぐるりと一望できるようになったのです。

そこから、農場の設計図作りです。私たちだけの経験と知識では力及ばず、タイから農業の専門家の方に来ていただき、水田をどこに作ったらよいか、または池はどのくらいの深さにすべきか等々話し合いながら、この農場の設計図を描くことが出来ました。理想の農場の形が、そこで描かれたのです。

しかしそこからが大変。この農場造成工事を行ってもらうために数社の土木業者様に見積もりを依頼しましたが、その額を見てビックリ。そこにはこれからの3年間の予算のほとんどを使ってしまうほどの額が記載されていました。どの業者様のものも、です。

このままではとても工事を依頼することは出来ません。そこで、我々がカンボジアで農業を始めて以来ずっと応援してくださっているEMの販売センター様に相談をしました。その結果、SAJのカンボジアでの10年間にわたる活動を深く理解をしてくださる業者様を紹介して下さり、特別な低価格で工事を請け負ってもらえることになりました。他の業者様に比べて、2分の1以下の価格です。

そうした交渉を経てやっと着工となりました。この農場造成工事は3段階に分かれて進んでいきます。まず第1段階は1haの循環型デモ農場の造成です。これは一家族5~6人がこの農場の中で自給することができ、また余剰生産分は現金



貯水池の造成！！

収入にすることもでき、そして石油などの外部からの資源投入を出来るだけ控えて、安定した生活を営むことができるというモデルです。

現在、着々とこのデモ農場の造成が進行しています。SAJ Farm、2011年の目標はこのデモ農場の成功・完全稼働です。

## 土を育てる。



**現在の土。砂です。**



**どんどん堆肥を作っています。**

左の写真を見てください。これは SAJ Farm の農地の土です。まるで砂浜の砂のようです。養分を保持する力は弱く、また水も十分に蓄えることができない土です。

日本の有機農場の土を見たことがありますか？黒々してフカフカしていて、いかにも作物が喜んで育ってくれるような土です。そのような土は水はけも水もちも良く、微生物も数多く生きており、養分のバランスがとれていて、作物や草木がすくすくと育ちます。

SAJ Farm もこのような理想の土を目指して、土を育てていきます。そのためには、有機物をたっぷり土に入れてあげることが必要です。有機物とは、簡単に言えば、植物性残さ・動物性残さのことです。落ち葉や木屑、家畜の糞尿がそれにあたります。これら有機物を土の中の目に見えない微生物が分解してくれて、作物が良く育つ土を育ててくれるのです。

でもただ有機物をそのまま入れるのではダメです。それでは自然の山と同じで、非常にゆったりとした時間軸の中で土を育てていくことになってしまいます。この有機物に人間が手を少し加えることによって、少し土作りの速度を速めてあげることができます。とはいっても、実のところ人間のできることはほんの少しで、他の多くの生物の力を借りているの

ですが、それが堆肥というものです。

堆肥は様々な有機物を微生物が活動しやすい割合で配合し、また微生物が活動するのに必要な水分を適量加えて、微生物によって発酵させたものです。有機物を積み込んでから数回切り替えしを行い約2ヶ月で土に入れることができるようになります。

この堆肥を土の中にたっぷりを入れてあげることで、土が育ち、水も養分も適切に蓄える理想の土が育っていきます。難しい言葉で言うと、土の物理性が改善され、生物性が多様になり、化学性が健全になる、ということです。

私たちは次回のお米作りに向けてこの堆肥作りをせっせと行っております。この堆肥によって土を育て、沢山の稲穂に実ってもらいます。

### 編集後記

しっかりした仮説を立て、実践し、検証する。農業とは、実践と理論とを車の両輪のようにして行っていくものだと考えています。（五月女）